

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月18日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104829
法人名	医療法人寛容会
事業所名	グループホーム癒しの森
所在地	鹿児島市岡之原町600番地1 (電話) 099-295-7255
自己評価作成日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kanyoukai.or.jp/">http://www.kanyoukai.or.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム癒しの森は、法人理念である「笑顔」「人・思・心」の考えのもと、困っている人を助けたい、それが私たちの原点です。  
認知症ケアの専門的な知識や新しい情報等を定期的に行われている勉強会にて共有しスキルアップに努めています。認知症は「よくなる」「できなくなる」などの悪いイメージがありましたが、医学や介護の発達でケア次第では認知症になっても「その人らしい」生活が送れるようになってきております。また、法人内で専門職、多職種が連携することで自宅で過ごしていたところに近い「その人らしい」生活の幅が広がると考えております。  
ホームの周りには畑などが広がっており四季折々の野菜やお花が育っております。その過程を散歩などを通して楽しむことができます。コロナ禍で交流自体は出来ていませんが地域の一員としてと馴染みのある場所であるとともに利用者様、ご家族の気持ちに寄り添いながら、いつも笑顔で安心して暮らせるようお手伝いさせて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所吉野支所から十数キロ離れた自然豊かな岡之原地区の一角に、平成18年に開設されている。周辺には法人母体の医療機関や調剤薬局、障害者施設、自動車整備工場、土木関係の事業所、一般住宅等あり、地域密着型サービス事業所として地域との交流が図り易い環境である。同法人系列の医療機関や各事業所とは法人本部を中心に情報の共有や研修会の実施、災害や緊急時の協力体制を築いている。  
開設以来、町内会に加入しイベントへの参加や日頃の散歩時の会話、友人知人の来訪、訪問理・美容、ボランティアの受け入れ、住民からの高齢者福祉や認知症ケアの相談への対応、農産物を頂くなど良好な関係を築いているが、コロナ禍に配慮して現在は外出や買い物、外食等による交流は控えている。多目的ホールの地域住民への開放も控えているが、コロナの収束状況を見ながら、イベントへの参加や住民との密な交流を徐々に再開したい意向である。  
管理者及び職員は法人の理念及びホームの基本理念を共有し、利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしい生きがいと平穏な暮らしの支援に努めており、日々の活動も無理強いすることの無い個別性や自己決定を尊重したケアに取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望に対しては職員全体で協議してサービスの改善に努めており、アンケートの結果からも信頼度の高さが窺える。  
管理者および職員は信頼と協力のある良好な人間関係を築いており、日頃の業務の中やスタッフ会議、個別面談等で意見や要望等を出し合い、全員で協議して運営やサービスの向上に取り組んでいる。日頃の業務も「お互い様」の気持ちで協力し合い、研修の実施やケアへの助言を行い、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的な事情も十分配慮するなど働きやすい環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえて個人を尊重し事業所理念を念頭に置きスタッフ間で常に共有し実践に繋げている	法人の理念を目に付き易い玄関に掲示して周知を図り、日頃の業務の中や毎月の定例会で振り返りや意見交換を行って、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。ホーム独自の基本理念も設定して利用者の人格や尊厳を大切にしたい、その人らしい平穏な生活が過ごせる支援に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響でホームのイベントや地域行事などへの参加はできておらず自粛している。尚、地域との連携は電話や書面などで行っている。	開設以来、町内会に加入して情報の把握に努め、円滑に交流する関係を築いている。感染予防に配慮しながら家族や友人との面会を窓や柵越し、タブレット等も活用して実施し、散歩時の地域のひととの挨拶、訪問理美容の受け入れ、農産物等の差し入れ、地域の住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談には適切に対応するなど円滑な交流に取り組んでいる。現在は地域のイベントの殆どが中止されホームの行事も職員と利用者として実施しているが、コロナ禍が収束したら買い物や外出、カフェ等による交流も徐々に再開したい意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	定期的に吉野地区との連絡は行っておらず随時やり取りをしている。認知症や困りごと相談などは電話にて対応を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響のため、電話や文書にてホームでの現状や取り組みなどの意見交換を行っている。	会議は、民生委員、町内会長、市長寿安心センター等の参加で隔月毎に開催し、利用者の現況やヒヤリハット、行事等の報告や意見交換に努めているが、現在はコロナ禍に配慮して書面での会議が続いている。各委員には議事録を送付して意見、要望を出して貰い、定例会等で協議して運営やサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護、高齢者福祉、介護保険の担当者とは日頃よりわからないことなどがあると行政に連絡をとり報告や相談を行っている。現在地区の勉強会や交流会はコロナ禍のため中止している。	市吉野支所の窓口や電話等で介護保険や各種制度、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携等を行い、助言や指導を貰うなど日頃から協力関係を築いている。市からの文書やメールでの情報の把握に努めホームの運営やサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の定例会の中で虐待や身体拘束をしないケアについての勉強会を繰り返し行っている。全ての職員が禁止となる具体的な行為を周知、理解できている。また、事業所内にも掲示してある。尚、身体拘束の事例は無し。	身体拘束の無いケアについては重要事項や利用契約書等に明記されており、指針はホームに掲示している。毎月の定例会で研修を実施し、日頃の業務の中でも振り返り等を行って認識を共有し、身体拘束廃止委員会も定例会の中で開催している。言葉による拘束も含め不適切な言動には、その都度助言し合うなど日常的に改善を図っており、センサーマットの使用はプランに反映させ、家族の了解も得ている。委員会の議事録の記載については改善を検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に掲示してある。委員会を設けており中心となって定期的に勉強会や個々の振り返りを行っている。日々注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については利用されている入居者様がおられ、ある程度は理解できている。権利擁護に関する制度の理解は不十分である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に重要事項説明書に基づき分かりやすいように説明させていただいている。また、説明内容に不安や疑問点が残らないよう相互で確認しながら一方的にならないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し様々な要望が出せるように工夫している。また、スタッフ全員で周知理解し改善しながら運営に反映させていただいている。ご家族様には広報誌などでも意見を求めている。	利用者や家族には意見や要望を言い易い雰囲気づくりに努めており、利用者の思いは日常の触れ合いの中での会話や仕草等で汲み取っている。家族からは面会や電話、手紙、意見箱の設置で把握し、毎月発行の「癒しだより」でも生活状況を伝えながら要望等を出して貰っている。意見や要望はケース記録で共有して改善を図っており、家族との信頼関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会やユニットミーティング、個々での面談などでスタッフの意見、ご家族からの要望、意見など周知し改善しながら運営に反映させていただいている。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼及び協力関係を築いており、日常のケアの中や申し送り、定例会等で意見や要望を出し合い、また個別面談も実施して業務やサービスの改善を図っている。ケアに対する助言や指導、研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、勤務シフトには有給休暇取得の促進や個人的事情等も配慮するなど働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤勉な非常勤職員は常勤の空きがあれば常勤として採用しており、また、スタッフの意向や適性など相談しながら希望職種の検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内の勉強会や研修を定期的に行い、また、資格取得に向けた支援では資格取得後の手当の反映、本人の意向を確認しながら活かせる労条件に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉野地区のグループホームの集まり「よかど会」に所属しており2ヶ月に1回研修、交流会を行っていたがコロナ禍で現在中止しており必要時電話などで連絡交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にホームの見学をお勧めしている。今はコロナ禍のため電話での対応が多くなっている。尚、不安なこと、要望をお聞きしながら安心して利用していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホームの見学をお勧めしている。今はコロナ禍のため電話での対応が多くなっている。相談時にご家族やご本人のニーズ、意向をお聞きし不安などが解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族の双方の困っていること、不安なこと、要望などの声を聞かせていただきながら安心できる環境づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見や嗜好を尊重しながらコミュニケーションをとっている。また、お互いに支え合う関係を大切に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	往診時の体調報告を少なくとも月に1回は報告を行っている。また、リモートなどを活用して交流を図っている。また、広報誌などでも状況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接の交流はできないため、テレビ電話を利用しながら大事な人とのふれあいができるように努めている。	利用者毎の生活歴や馴染みの状況をアセスメント等で共有し、家族の意向も確認しながら支援している。感染予防に配慮しながら家族や友人との面会や訪問理美容の実施、散歩時の地域の人と挨拶を交わし、他科受診時には車窓から馴染みの町並みや風景等を楽しんでいる。家族との電話や手紙を取り次ぎ、「癒しだより」の送付や電話等で利用者毎に現状を詳しく伝えるなど関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や個性を把握しながら、席の配置や距離感、孤立しないようにコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされることがあればサービスが終了しても継続的な関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が意見をはっきりと話される方は把握しやすい、困難な方は生活歴や暮らしの中で思いや意見が把握できるように、また、ご家族にもお聞きしている。	重度化で会話やコミュニケーションが困難な利用者もいるが、個々の思いを日頃のケアの中での会話や仕草等で汲み取り、その人らしい生きがいのある暮らしとなるよう家族とも連携して支援している。選択肢や問いかけるような働きかけで無理強いない自己決定を尊重したケアに努めており、趣味（カラオケやテレビの視聴他）や家事（菜園の手入れや室内外の掃除、調理の手伝い他）の取り組みもプランに反映させて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご本人やご家族も交えて今までの生活ぶりをお聞きしている。また、普段の会話の中でも新しく知りえたこともスタッフ間で共有し対応させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の過ごし方を尊重している。その中で個々の心身状態を観察、把握しながら必要な情報をスタッフ全員で共有できるようにタブレットなども活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と生活の振り返りや今後の意向などを聞かせていただき、情報収集、モニタリングを行いながら、ご入居者様の生活の質が向上するよう介護計画作成に努めている。尚、ご家族のご意向やご協力が得られないこともある。	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示や日頃の記録及びモニタリング時の職員意見を基に趣味や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、状態の変化時には実態に沿った計画に変更しており、計画の内容は家族にも説明して理解を得ている。ケアの実施状況は申し送りやケース記録、各種のチェック表等で共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で本人の希望や望む生活を記録、把握して申し送りなどで情報共有し定例会などで話し合いを行ってより良いサービスにつながるように努めており、ご家族の支援が必要な時にご相談させていただいている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルスの影響で外出や面会などが難しい状況であるが、現在できることを考え、リモートを活用した交流でご家族にも対応している。一部、手紙でのやり取りもある。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響で地域資源を活用することが難しいので事業所内で今できる行事など見直し、一緒に楽しめる工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とも相談しながら、ご本人やご家族の希望される病院での診察を行っている。	本人及び家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月1～2回）や通院が実施され、他科受診は家族と協力して同行し訪問歯科も実施している。訪問看護による健康及び衛生管理に努め、体調の変動等は家族及び協力医療機関と密に連携を図っており、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師と24時間体制で連絡がとれるようになっており適切なアドバイスが受けられるようになっている。また、協力医療機関と連携を図りながら必要な指示、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は状態確認のため相談員と情報の交換を行いながら、本人の退院については医師やご家族と共に決めている。コロナ禍ということもあり慎重に判断をする必要がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をくみとりスタッフ全員で話し合いご家族や医療機関と連携を図りチームでの支援できるように努めている。尚、ご本人にとって良い環境とは何なのかということも考え行っている。	重度化や終末期の対応については指針を整備し、入所時や病状の変化に応じて本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で十分に話し合いを行って可能な限り希望に添ったチーム体制での支援をプランに反映させて取り組んでいるが、殆どの利用者が最終段階で医療機関や老人保健施設への入院を選択しており、これまで看取りの実施は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルや消防署による救急隊指導による緊急対応訓練を実施し全スタッフが対応できるようにしている。マニュアルは常時閲覧できる場所に保管してある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、消防訓練を実施している。地域との緊急連絡網も作成しており、自然災害マニュアルも作成済みである。立ち合いでの指導が困難な際は書面での指導をお願いしている。</p>	<p>消防署の協力を得て年2回（うち1回は消防署立ち合い）夜間発生も想定した火災中心の災害訓練を実施し、避難や通報、消火器等の取扱いも研修している。地域を含む連絡網の作成や自然災害時のマニュアルを整備し、日頃から災害パターンに対応した避難経路の確認や意見交換をするなど認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置、消火器等が設置され災害時の食料・飲料水、介護用品等は約3日分を備えており、ホームは住民の避難場所にもなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、敬意を持ちながらお声かけ、表情、態度、対応に配慮しつつ失礼のない行動をとっている。	人格の尊重やプライバシー確保、守秘義務については運営規定等に明記され、研修の実施や定例会及び日常のケアの中で認識して適切なケアの実践に努めている。利用者の思いや特性を大切にしたケアに日々心掛けており、入室時の声掛けやノックを励行し衣服の選択、余暇時間の過ごし方等は自己決定を尊重しており、入浴や排せつ時のケアに際しては羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見や表情や反応を見ながら意向を汲み取り自己決定ができるようお声かけ、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務やスタッフの都合に合わせてではなく、利用者様の思いやペースに合わせて利用者様本位の生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	気分や状態に合わせて衣類はご本人が選んで着ていただけるように対応している。尚、気温や気候などの助言はさせていただく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のアレルギーや嗜好品、機能を考慮しその方に合ったメニューの提供、下膳に努めている。	利用者の好みや栄養バランス、状態に応じた形態、季節感、アレルギーや疾病に伴う制限等に配慮し、季節の行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ、利用者と一緒に梅干し作りなど、日々の食事が楽しみなものとなるようホームで調理している。利用者も食材の下処理や片付け等を楽しみながら一緒に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は現在控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況は毎日記録させていただいており、水分、食事が満たない状況の時はご本人の気分や時間帯、嗜好にあった物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科より助言、指導をいただき本人の機能に応じて職員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は一人一人の排泄のリズムや機能を把握しながら安心して排泄へつなげられるように努めている。	身体の状態や習慣、排泄リズムに配慮し独自のサインも見逃さずに、可能な限りトイレでの排泄を支援している。現在、夜のみポータブルトイレやオムツを使用する利用者も少数いる。身体の状態に応じた介護用品やケアの方法をプランに反映させて取り組んでおり介護用品の減少等の改善が見られている。便秘予防に食材や乳製品、水分量、運動等を配慮しており、状況によっては主治医に相談して悪化を防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立での工夫を行いながら水分摂取、食物繊維などの食事面から働きかけや適度な運動。また、排泄リズムの把握なども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご本人の希望やタイミングに合わせて対応を行っている。また、清潔保持の必要性に納得していただき、清拭などの対応も行う。	週2～3回の入浴を基本に、清拭、シャワー浴も行って保清している。温度や時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴で気持ち良く楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間や声かけ等の工夫で意欲を促している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に合わせて休息を取り入れ、夜間はゆっくり休んでいただけるように適度な日中活動も行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用されている薬の目的や副作用について理解できている。また、誤薬が起らないようにマニュアルを作成し複数での確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、趣味、嗜好、長所を生かした取り組みをしていただき自信や張りのある生活が送れるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で現在できることが制限されることもあるが、その中で様々なことを工夫しながら不便さを感じないような支援ができるように努めている。	コロナ禍により外出計画も十分実施出来ない状況であるが、利用者の状態に応じたケアで園庭での日光浴や散歩を実施し、都市農業センターのコスモスの見物に出かけたり家族の協力を得ながら他科への通院の外出も支援している。全員での買い物や外食等は控えており、室内での軽い体操や脳トレのゲーム、テレビや音楽の視聴、季節に応じた作品作りなどレクリエーションを工夫してリフレッシュを図っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の許可をいただき、ホームで立替を行い、必要なものや希望された物の購入を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族には事前に確認を行い、ご本人の希望に沿った手段でやり取りができるように支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の場でも過ごしやすいように光や音、温度、家具の配置など配慮している。ご入居様と一緒に季節の飾りつけを行ったり、親しみのある空間づくりに努めている。また、中庭にも季節の植物を置いている。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすホールは、明るく余裕のあるスペースが確保され中庭には植物が植えられて開放感に満ちており、リビングには活花や季節感のある利用者の作品が飾られ、台所からは調理の音や匂いが伝わるなど家庭的な雰囲気である。テーブルセットやテレビ等が利用者の動線に配慮して設置され、清掃や空調、衛生管理等を徹底して快適に過ごせる環境になっており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング内でも集まって作業や活動が出来る場所と少し離れて静かに過ごせる場所とソファなどの配置を工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビなどを持ってきていただき自分のペースで過ごされたり、写真など馴染みのものなどで落ち着いて過ごせるようにご家族とも相談しながら居室への配慮を行っている。	居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保されベッド、エアコン、クローゼット、タンスが備えられている。利用者は長年愛用してきた寝具やテレビ、ラジオ、小物、家族写真等を持ち込み、自身の作品や誕生日祝いで頂いた品物等も飾って落ち着いて憩える雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板やサインなどをつけることにより他者に聞かなくても場所の把握がご自身ででき、自立した生活が送れるように支援させていただいている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない